

セラピーで陥りやすい過ち

2008/09/14 北陸定例会

藤坂龍司

1. インプットセラピー

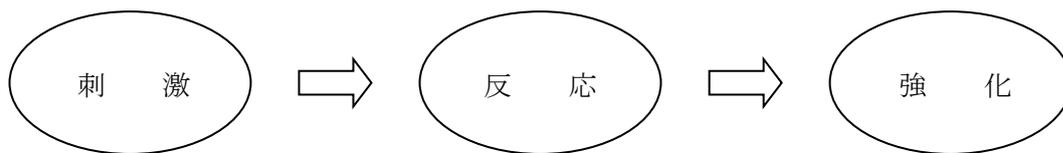
<どんなセラピーか>

指示を何度も繰り返したり、大声で言うことによって子どもに印象づけ、「覚えさせよう」とする。その一方で、強化は忘れることもある。

2, 3回、インプットを繰り返したら、「もう覚えたかな」と思って、プロンプトなしで試してみるが、やっぱり覚えていない。そこでまた何度もインプットする。

<どこが悪いのか>

刺激（指示）に対して子どもがこちらの望む反応をするようにするには、その直後に強化をすることが何より大切。強化を怠って、刺激ばかりを繰り返しても効果は乏しい。



<どうしたらいいか>

指示は一度だけ。はっきり明瞭に言えばよく、大声で言う必要はない。

その代わりに、指示の直後にプロンプトを出し、正反応を引き出しては強化子を与える。正反応がないときは、強化子を与えない。この結果のメリハリこそが、子どもの反応を強める。

2. サブリミナルセラピー

<どんなセラピーか>

フラッシュカードを何度も見せながら、名前を聞かせていると、潜在意識に情報が蓄積され、どんどん頭に入っていき、と考える。反応を引き出せなくても気にしない。したがって強化もしない。

<どこが悪いのか>

ただインプットするだけで反応（アウトプット）を求めないので、うまく行っていなくてもわからない。子どもが実は分かっているにもかかわらず、それがわからない。「これでいいのかなあ」と思いながら続けてしまう。

<どうしたらいいか>

一枚ずつ、確実に何かの反応（選ばせるか、名前を言わせるか）を引き出し、それを強化する。

3. 不注意セラピー

<どんなセラピーか>

子どもを集中させることができず、新しい課題をなかなかクリアできない。子どもは何となくぼおっ

としているか、自己刺激にふけっている。

<どこが悪いのか>

考えられる原因はいくつかある。

①セラピーが間延びしていたり、変化が乏しいので、子どもの注意を惹き付けられない。

②お手つきを許していたり、強化子のオンオフがはっきりしないので、子どもにとって正解を出そうが出すまいが、どうだってよくなっている

<どうしたらいいのか>

①セラピーのテンポを速くする。同じ課題でも、教材の出し方を変えたり、強化子を変えたり、ほめ方を尻上がりにグレードアップしたり、別の復習課題を混ぜたりして、最後まで注意を惹き付ける努力をする。子どもの忍耐力、集中力の限界まで引っ張りすぎて、ぐずられて終わるより、まだ集中しているうちに、ほめて終わること

②修正を認めない。お手つきしたら、すぐに差し戻す。しばらく時間を空けて、次の指示ではプロンプトして正解を引き出す。反応が遅いとき、すぐに追加の指示を出すのではなく、しばらく待つ。次の指示では直ちにプロンプト。

4. メイドセラピー

<どんなセラピーか>

子どもが気に入らない課題だとかんしゃくを起こしたり、ボイコットしたりする。結局根負けしてしまい、つい子どもの気に入る課題だけを選んでやってしまう。強化子の種類も、席を立つタイミングも、大人ではなく子どもが決める。子どもの召使いになっているようなセラピー。

<どこが悪いのか>

かんしゃくを恐れ、セラピーを成り立たせることを優先して、かんしゃくやボイコットととことん対決しようとしていない。

<どうしたらいいのか>

かんしゃくを恐れない。かんしゃくを起こしても、部屋からは出さずに、収まるまで1時間でも辛抱強く待つ。収まり切るのを待って、また席に誘い、簡単な指示を出す。これを繰り返しながら、徐々にこちらの教えたい課題に誘導する。

うずくまってボイコットする場合は、席から立たせないで、1時間でも待つ。子どもが顔を上げたら、最初は乗ってきやすい指示を出し、思い切り強化して、徐々にこちらが教えたい課題に持っていく。

5. 取引セラピー

<どんなセラピーか>

「これしたら、これあげる」と約束しないと、やる気を出さない。そこでついごほうびを前もって約束してしまう。

<どこが悪いのか>

前約束に慣れさせると、強化子を間引くことができなくなる。それではごほうびのない幼稚園や学校に教えたことを般化させることができない。

<どうしたらいいのか>

ごほうびの約束はしない。強化は後出し。その代わりに、最初は効き目のある強化子をいくつか用意しておき、できるたびにそれらをとっかえひっかえ与える。次第に間引くようにする。

5. その他

<ぶっつけ本番セラピー>

ろくに準備をせずにセラピーを始めるので、いざ椅子に座らせてから、教材を用意したり、強化子を取りに台所に戻ったりする。そのうちに子どもは飽きてしまい、席を立ったり、遊びだしたりする。

セラピーを始めても、ちゃんと準備してないので、セラピーがいつもの繰り返しになり、ちっとも前進しない。子どもも飽きてしまってダラダラするのを見ると、余計に腹が立ち、つい子どもを叱りつけてしまう。

あるいはその場の思いつきで新しい課題を始めてしまい、あとでうまく行かなくなる。その場だけのやりっぱなしになってしまう。

<カード・セラピー>

市販のカードに頼ってしまい、「カードがあるから、この課題をする」、「カードの中にこれが入っているから、この名前を教える」、という状態になってしまっている。